

# 日本語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語学概論	日本語の歴史	2	大木 一夫	3	前期月曜日5講時	国語学概論
日本語学概論	日本語学入門	2	菊地 恵太	3	前期火曜日2講時	国語学概論
日本語学概論	方言研究	2	小林 隆	4	後期月曜日5講時	国語学概論
日本語学概論	ことばのバリエーション	2	甲田 直美	4	後期火曜日3講時	国語学概論
日本語学基礎講読	古典語講読	2	大木 一夫	4	後期月曜日4講時	国語学基礎講読
日本語学基礎講読	古典語・方言講読	2	小林 隆	3	前期月曜日2講時	国語学基礎講読
日本語学各論	日本語文法研究	2	大木 一夫	5	前期木曜日2講時	国語学各論
日本語学各論	文章・談話の構造論	2	甲田 直美	5	前期月曜日3講時	国語学各論
日本語学各論	方言学的日本語史研究	2	小林 隆	6	後期火曜日2講時	国語学各論
日本語学各論	日本語文法研究の諸問題	2	三宅 知宏	集中(6)	集中講義	国語学各論
日本語学講読	近世口語研究	2	大木 一夫	5	前期月曜日2講時	国語学講読
日本語学講読	言語変化研究	2	大木 一夫	6	後期木曜日2講時	国語学講読
日本語学演習	方言調査法	2	小林 隆	5	前期火曜日2講時	国語学演習
日本語学演習	文章・談話の構造	2	甲田 直美	6	後期月曜日2講時	国語学演習
日本語学演習	言語地理学と文法	2	津田 智史	5	前期木曜日5講時	国語学演習

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB31501, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：日本語の歴史

2. Course Title (授業題目) : History of the Japanese language

3. 授業の目的と概要：言語は変化する。これは言語がもつ本質的な性質である。そして、その変化の結果、古代の日本語が現在の日本語になったのである。それでは、日本語はどのようにうつりかわってきたのか。古代語から現代語まで変化してきた日本語の歴史の概要について把握する。また、同時に言語の歴史をとらえる方法の概要を把握する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will learn about the outline of Japanese language history. You will also learn about an overview of how to reveal the history of the language. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

5. 学修の到達目標：(1) 日本語の歴史について、その流れを略述し、重要事項が説明できるようになる。

(2) 言語の歴史をとらえる方法について、説明できるようになる。

(3) 日本語の歴史および日本語史の方法に関する問題点を見出し、それを説明することができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to outline the history of Japanese language,

(2) be able to explain important matters of Japanese language history,

(3) be able to explain how to reveal the history of language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ことばは変化する

第2回：日本語の文字の誕生

第3回：上代特殊仮名遣

第4回：古代日本語の発音をさぐる

第5回：日本語の文章の確立と古代日本語の語彙

第6回：古典文法の世界

第7回：近代日本語の発音へ

第8回：近代日本語文法の性格

第9回：日本語表記改革への道

第10回：日本語語彙の近代化

第11回：新しい書きことばの成立

第12回：言語政策と現代日本語の表記

第13回：日本語史通史補遺

第14回：試験と解説

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

上記の「到達目標」に即して、筆記試験およびいくつかの講義内の小課題で総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫『ガイドブック日本語史』（ひつじ書房）、他に必要に応じてコピーを配布する。

参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読み、十分理解して参加する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：菊地 恵太

コード：LB32204, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：日本語学入門

2. Course Title (授業題目)：An introduction to Japanese linguistics

3. 授業の目的と概要：我々が当たり前のように使用している日本語がどのような特徴を持った言語であるか、また日本語を巡ってどのような現象が見られるのか、客観的に把握することを目的として、日本語の様々な側面について講義する。言語学・日本語学とはどのような学問かという点についても、理解を深められるようにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is a lecture on an outline of Japanese linguistics.

In this course, you will grasp various phenomena and features of Japanese language objectively, and you will be able to enhance understanding of linguistics.

5. 学修の到達目標：1. 日本語を巡る様々な現象について、客観的に捉えられるようになる。

2. 言語学・日本語学に関する基礎的な知識を習得する。

3. 身近に使用されている日本語に問題意識を持ち、学術的観点から説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To understand various phenomena about Japanese language objectively.

2. To acquire basic knowledge of Japanese linguistics.

3. To become aware of questions about familiar Japanese language, and become able to explain them from an academic perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス/言語とは何か

2. 世界の言語と日本語

3. 音声学・音韻論 (1) 調音と音声記号

4. 音声学・音韻論 (2) 音韻とアクセント

5. 語彙論 (1) 意味と語彙体系

6. 語彙論 (2) 語構成

7. 文法と文法論

8. 文の単位と品詞

9. 文法範疇 (1) 文の成分と格

10. 文法範疇 (2) テンス・アスペクト・ボイス

11. 文法範疇 (3) モダリティ

12. 文字・表記 (1) 日本の文字体系

13. 文字・表記 (2) 漢字・異体字

14. 文字・表記 (3) 日本の文字施策

15. 試験・解説

8. 成績評価方法：

小テスト (授業内容の復習) (20%)

授業態度 (コメントペーパー) (20%)

期末試験 (60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない (プリント配布)。参考文献は授業内で適宜示す。

10. 授業時間外学習：日本語を扱う授業であるので、普段から使っている言葉や文字に注意を払う癖をつけてほしい。ノート、メモ等を積極的に取り、毎回復習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：小林 隆

コード：LB41502, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：方言研究

2. Course Title (授業題目) : Dialectology

3. 授業の目的と概要：方言は身近な存在だけに、研究の対象にはならないと思っている人が多い。しかし、方言は日本語学の研究分野のひとつとして位置づけられている。そもそも方言とは何なのか、それを研究するにはいかなる方法があるのか、あるいは、実際に日本語の方言はどのようなになっているのか、そういった問題をこの授業では取り上げる。音韻、アクセント、語彙、文法など基本的な内容のほか、方言の運用的側面や歴史的側面もテーマとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : There are a lot of people who think a dialect isn't made the target of a study only in close existence. But a dialect is placed as one of a research field of study of Japanese language. I disqualify for such problem what kind of way is that it's here or that what happens to a Japanese dialect actually at this session for after all what a dialect is to study that. "Dialect and dialectology" "phoneme of a dialect, accent vocabulary and grammar" "classification of a dialect" "present-day dialect" the using flank of the dialect and the historical flank in addition to the basic contents of etc. are made a theme.

5. 学修の到達目標：(1)方言に対する関心を高め研究対象として理解できるようにする。

(2)方言研究について概括的な知識を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) I'll can understand the interest to the dialect as a high subject of research.

(2) I put on general knowledge about dialectology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 1. 方言研究への導き

2. 2. 方言の音韻 (1)

3. 2. 方言の音韻 (2)

4. 3. 方言のアクセント (1)

5. 3. 方言のアクセント (2)

6. 4. 方言の語彙 (1)

7. 4. 方言の語彙 (2)

8. 5. 方言の文法 (1)

9. 5. 方言の文法 (2)

10. 6. 方言の表現 (1)

11. 6. 方言の表現 (2)

12. 7. 方言の歴史と現在 (1)

13. 7. 方言の歴史と現在 (2)

14. 7. 方言の歴史と現在 (3)

15. 8. 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

筆記試験 (80%)・出席 (20%)。オンライン授業の場合、コメントの提出を求められることがある。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業資料を配布する。参考書は適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：日ごろ、自分および自分の周囲の人々の方言について観察することで、授業の内容について体験的・具体的に理解するように努める。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学概論／ Japanese Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB42301, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学概論】

1. 授業題目：ことばのバリエーション
2. Course Title (授業題目)：Variation in Japanese Language
3. 授業の目的と概要：言語の持つ、地域、時代、使用者、媒体等によるバリエーションについて、研究の実例と分析方法について講義する。抽象的所有物ではなく、実際の場面で使用された、具体的使用文脈における言語を扱う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces various topics in Japanese language variations such as regional dialect, diachronic change, speaker's regional or social background, and mode of discourse. Variety is a specific set of human speech patterns. Viewing language as a realization of language use, the focus of the course is on examining the interrelationship between language variety in sounds, words, grammatical features and people's language use in everyday life.
5. 学修の到達目標：(1)我々が日常使用している言語を観察・記述できるようになる。  
(2)会話分析の基本的技能を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To develop student's ability to analyze language in everyday life  
To develop student's ability to do Conversation Analysis (CA)
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 言語資料の収集と作成
  2. 言語資料の特性 1
  3. 言語資料の特性 2
  4. 言語資料の特性 3
  5. 思考と言語
  6. 書き言葉と話し言葉 1
  7. 書き言葉と話し言葉 2
  8. 物語と文化比較
  9. 映像資料と音声資料、そして文字資料
  10. 文法論と談話論の接点 1
  11. 文法論と談話論の接点 2
  12. 話者交替と参与構造
  13. 会話の構造 1
  14. 会話の構造 2
  15. 研究の方法
8. 成績評価方法：  
出席 10%、提出物 40%、期末レポート 50%
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用しない。授業内で資料プリントを配布する。
10. 授業時間外学習：実際にデータ収集をし、観察・分析を行い、レポートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB41405, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学基礎講読】

1. 授業題目：古典語講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Japanese classics

3. 授業の目的と概要：日本語学の基礎として、古典作品を読み、理解する手続きを学ぶ。また、そこにみられる日本語史上の問題について検討を加える。参加者は日本語史上の問題について調査・考察をおこない報告する。報告にあたっては、文献の調査・発表資料の作成など事前の準備が必要となる。作品は『源氏物語』。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will learn the procedures for reading and understanding classical works as the basis of Japanese linguistics and Japanese studies. The text is "The Tale of Genji". You are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

5. 学修の到達目標：(1) 古典語の文献資料を読むことができるようになる。とくに、変体仮名を読むことができるようになる。(2) 文献による日本語史研究の手続きを理解し、それにしたがって調査をおこなうことができるようになる。(3) 調査にもとづき報告し、議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

- (1) Be able to read materials in ancient Japanese languages. In particular, variant kana.
- (2) Understand the procedures for studying Japanese language history, and conduct research accordingly.
- (3) Be able to report and discuss based on the survey.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 古典語と古典作品、『源氏物語』
3. 『源氏物語』を読む(1)
4. 『源氏物語』を読む(2)
5. 『源氏物語』と日本語史的分析(1)
6. 『源氏物語』と日本語史的分析(2)
7. 『源氏物語』と日本語史的分析(3)
8. 『源氏物語』と日本語史的分析(4)
9. 『源氏物語』と日本語史的分析(5)
10. 『源氏物語』と日本語史的分析(6)
11. 『源氏物語』と日本語史的分析(7)
12. 『源氏物語』と日本語史的分析(8)
13. 『源氏物語』と日本語史的分析(9)
14. 『源氏物語』と日本語史的分析(10)
15. 『源氏物語』と日本語史的分析(11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

テキスト：青表紙本源氏物語『常夏』（新典社）。

参考書：大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019。

その他の参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：テキストの指定範囲を読んで参加する。

日本語史的分析のための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語学基礎講読／ Japanese Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小林 隆

コード：LB31203, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学基礎講読】

1. 授業題目：古典語・方言講読

2. Course Title (授業題目)：Classical Japanese and dialects

3. 授業の目的と概要：江戸時代に成立した全国方言集、越谷吾山の『物類称呼』を国語学的に読み解く。近世の言葉に親しむとともに、方言的な背景を明らかにしていく。テキストは版本を使用する。

授業は発表形式とする。参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえでプリントを作成し、発表に臨むこととする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read and understand the nationwide dialect of the national dialect established in the Edo Period, Koshigaya Gozan's "Butsurui Shooko" from the perspective of Japanese language studies. We will be familiar with the words of modern times and reveal the dialectic background. The text uses the manuscript.

Classes are in presentation form. Participants prepare prints after reading comprehension and investigation on the range to which the text is allocated, and will present the presentation.

5. 学修の到達目標：(1) 古典語を国語学的に読み解くために必要な方法論を修得すること。

(2) 方言辞典や方言地図の利用方法を身に着けること。

(3) 近世から現代にかけての方言の動態に興味を持つこと。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire the methodology necessary for reading and understanding classical words nationally.

(2) To acquire how to use a dialect dictionary and dialect maps.

(3) To be interested in the dynamics of modern dialect from early modern period.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業への導入

2. 越谷吾山『物類称呼』について

3. 発表に向けての準備の方法

4. 発表 1

5. 発表 2

6. 発表 3

7. 発表 4

8. 発表 5

9. 発表 6

10. 発表 7

11. 発表 8

12. 発表 9

13. 発表 10

14. 発表 11

15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席状況等）、試験（変体仮名の解読等）、レポートの3つによって評価する。

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

**1 0. 授業時間外学習：** 参加者はテキストの割り当てられた範囲について、読解や調査を行ったうえでプリントを作成し、発表に臨む必要がある。

**1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**1 2. その他：なし**

特になし。

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB54203, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、叙述類型。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is typology of predication.

5. 学修の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文法的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,

(2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,

(3) be able to think grammatically and report and discuss the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：文法研究とは何か

第3回：先行研究の分析について

第4回：テーマ概説

第5回：研究史の分析(1)

第6回：研究史の分析(2)

第7回：研究史の分析(3)

第8回：研究史の分析(4)

第9回：分析実践(1)

第10回：分析実践(2)

第11回：分析実践(3)

第12回：分析実践(4)

第13回：分析実践(5)

第14回：分析実践(6)

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。

(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB51302, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：身の回りの具体的な談話の表現を分析する。

文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1)文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2)会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学修の到達目標：(1)近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2)授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～

2 新しいコミュニケーションツールのことばについての分析--ケータイメールを中心としてPCメール・チャット・ブログなどを材料に

3 インターネットのことば

4 広告のことばの分析--ネット広告と雑誌広告を材料に

5 広告のことばの実際

6 日常会話の分析--小学校教員の談話データを材料に

7 男性の言葉、女性の言葉

8 目的をもった会話の分析--相談談話をモデルとして

9 談話の効果の分析

10 分析事例の紹介

11 会話に頻繁に見られる現象

12 研究テーマの着眼点, レポートの書き方

13 研究の進め方

14 レポートへ向けて

15 講義のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [60%]

9. 教科書および参考書：

ここからはじまる文章・談話 単行本 - 2008

高崎 みどり (編集), 立川 和美 (編集)

出版社 : ひつじ書房

ISBN-10 : 4894763451

ISBN-13 : 978-4894763456

10. 授業時間外学習：教科書を読んでまとめ、論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小林 隆

コード：LB62205, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：方言学的日本語史研究

2. Course Title (授業題目) : study of the dialectological Japanese history

3. 授業の目的と概要： これまでの国語史研究には、文献資料のみに頼り、しかも、中央語史に偏るという問題点があった。方言学的日本語史は、方言を視野に入れることによって、ことばの位相や地理的広がりの中で、従来の国語史の限界を超えることをめざす。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な歴史の記述を通してさまざまな課題について検討していく。

今回は特に、これまで研究が進んでいなかった言語行動や感動詞などを取り上げることにし、その構造と変異、運用の地域差について考え、歴史的な側面についての検討も行う。前期の日本語

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Study of the dialectological Japanese history chooses a dialect as being able to come in sight, and to exceed the limit of the conventional Japanese history in the phase of the word and the side of the geographical expanse. Such purpose of a study and methodology are being explained and various problems are being considered through description of history in detail at this session.

This time, in particular, we will focus on language behavior and interjections that have not been studied so far, consider their structures, variations, and operations, and examine historical aspects. The results of the dialect survey that will be conducted in the Japanese variation theory research exercise in the first semester will also be analyzed in this class.

5. 学修の到達目標： 方言を視野に入れた日本語史研究について理解する。特に、言語行動や感動詞の方言研究についてのさまざまな知見を身に着け、分析力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Understand the study of the dialectological Japanese history. In particular, acquire various knowledge about dialect research of language behavior and interjections, and develop that analytical skills.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程説明
2. 言語行動・感動詞研究の視点 (1)
3. 言語行動・感動詞研究の視点 (2)
4. 言語行動・感動詞研究の視点 (3)
5. 言語行動・感動詞研究の方法・資料 (1)
6. 言語行動・感動詞研究の方法・資料 (2)
7. 言語行動・感動詞研究の方法・資料 (3)
8. 言語行動・感動詞研究の事例 (1)
9. 言語行動・感動詞研究の事例 (2)
10. 言語行動・感動詞研究の事例 (3)
11. 言語行動・感動詞調査結果の分析 (1)
12. 言語行動・感動詞調査結果の分析 (2)
13. 言語行動・感動詞調査結果の分析 (3)
14. 言語行動・感動詞調査結果の分析 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (80%)・出席 (20%)

**9. 教科書および参考書：**

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

**10. 授業時間外学習：**言語行動や感動詞について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学各論／ Japanese Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：6 単位数：2

担当教員：三宅 知宏

コード：LB98830, 科目ナンバリング：LHM-LIN305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学各論】

1. 授業題目：日本語文法研究の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues in Japanese Grammar Research

3. 授業の目的と概要：日本語研究において現在、問題になっているトピックを、「文法」の分野を中心に取り上げ、講義する。その際、他言語との対照についても言及し、一般言語学における知見（言語理論）も積極的に活用する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This lecture covers topics that are currently considered issues in Japanese Linguistic Research. In so doing, this course will also actively incorporate comparisons with other languages and the knowledge of general linguistics (linguistic theory).

5. 学修の到達目標：(1) 日本語という言語を研究するとはどういうことかについて理解を深める。

(2) そもそも「言語」を研究するとはどういうことかについて理解を深める。

(3) 日本語という言語について、特に「文法」の側面についての知識を得る。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) Students will further their understanding of what it means to research the Japanese language.

(2) Students will further their understanding of what it means to research a language.

(3) Students will gain knowledge of the Japanese language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入（本講義の概略，研究スタイル）
2. 導入2（日本語の文法研究の現状と課題，「記述／理論」）
3. 日本語の基本的な文法的特性
4. いわゆる「文法化」と共時的な現代日本語
5. 日本語における「文法化」の言語現象の諸相
6. 日本語における「文法化」の言語現象の諸相2
7. 形態的有標性の観点から見た日英語の対照
8. いわゆる「構文」と共時的な現代日本語
9. 形態的有標性の観点から見た「文法化」と「構文」
10. 「補助動詞」というカテゴリーをめぐる
11. 「補助動詞」と「文法化」
12. 「補助動詞」と「構文」
13. 事例研究①「発見構文」他
14. 事例研究②「受益構文」他
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート70%，授業態度（授業期間中に課す小レポートを含む）30%

9. 教科書および参考書：

テキストは使用せず，適宜，プリントを配布する。参考文献は授業中に指示するが，次を主要な参考書とする。

三宅知宏（著）『日本語研究のインターフェイス』（くろしお出版）

10. 授業時間外学習：各日の授業において，翌日の授業に向けての課題を提示するので，受講者は各自その課題に取り組み，翌日の授業時における議論に耐え得るように準備すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB51206, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：近世口語研究

2. Course Title (授業題目)：Study of early modern colloquial Japanese

3. 授業の目的と概要：『古今和歌集』の注釈書のひとつである本居宣長『古今集遠鏡』を読む。『古今集遠鏡』は『古今和歌集』の和歌を俗語訳、すなわち江戸時代の口語で訳したものである。では、そこに見られる宣長の俗語訳とはどのような訳なのだろうか。また、そこで用いられる俗語とはどのようなものなのだろうか。『古今集遠鏡』を丁寧に読みながら、江戸時代の口語の諸相をさまざまな観点から分析していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, while reading "Kokinshu-tokagami", you analyze various aspects of the early modern colloquial Japanese and Japanese language history.

5. 学修の到達目標：(1)日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。

(2)日本語史上の問題点を見いだすことができるようになる。

(3)文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論をおこなうことができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) be able to read materials in old Japanese languages.

(2) be able to find problems in Japanese language history

(3) be able to conduct surveys to grasp the history of Japanese language based on literature materials, and to make reports and discussions based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、変体仮名の読み方

2. 日本語史上の口語資料

3. 『古今集遠鏡』解題

4. 発表の方法

5. 研究発表(1)

6. 研究発表(2)

7. 研究発表(3)

8. 研究発表(4)

9. 研究発表(5)

10. 研究発表(6)

11. 研究発表(7)

12. 研究発表(8)

13. 研究発表(9)

14. 研究発表(10)

15. 研究発表(11)・まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

大木一夫『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房 2019

テキスト（『古今集遠鏡』）はコピーして配付する。

参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1)日本語史研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

(2)文献によって日本語の歴史をとらえるための調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

第6セメスターの「日本語学講読」（言語変化研究）も連続して履修すること。

科目名：日本語学講読／ Japanese Linguistics (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LB64207, 科目ナンバリング：LHM-LIN313J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：言語変化研究

2. Course Title (授業題目) : Study of language change

3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史上におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, you will clarify the language changes that have occurred in the history of Japanese language, and analyze how they changed there and why. Students conduct surveys and analyses, publish and discuss the results.

5. 学修の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。

(2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.

(2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.

(3) be able to conduct research to clarify language changes, and report and discuss based on them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 言語変化研究の現状(1)

3. 言語変化研究の現状(2)

4. 言語変化研究の現状(3)

5. 言語変化研究の問題意識(1)

6. 言語変化研究の問題意識(2)

7. 言語変化についての研究発表(1)

8. 言語変化についての研究発表(2)

9. 言語変化についての研究発表(3)

10. 言語変化についての研究発表(4)

11. 言語変化についての研究発表(5)

12. 言語変化についての研究発表(6)

13. 言語変化についての研究発表(7)

14. 言語変化についての研究発表(8)

15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。

言語変化の過程、要因の研究方法について検討する。

日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

第5セメスターの「国語学講読」(近世口語研究)から連続して履修すること。

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小林 隆

コード：LB52206, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目) : Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations. If it is difficult to conduct a field survey due to the effects of coronavirus infection, we plan to switch to an online survey.

5. 学修の到達目標： 方言調査の方法を検討し、実際に調査を企画・実施する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : A way of a dialect investigation is considered, and an investigation is planned and it's put into effect actually.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説(1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説(2)

5. テーマ等設定に向けての作業(1)

6. テーマ等設定に向けての作業(2)

7. 中間報告(1)

8. 中間報告(2)

9. 調査票の作り方についての解説

10. 調査票の検討、方言会話の収録調査の方法

11. 調査票の検討、模擬調査と録音機の使い方

12. 現地調査と結果の分析(1)

13. 現地調査と結果の分析(2)

14. 最終報告(1)

15. 最終報告(2)、授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート(50%)・出席(50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜教室で指示する。

10. 授業時間外学習：①テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

②現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

オフィスアワー：随時

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LB61205, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：文章・談話の構造

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Analysis

3. 授業の目的と概要：教科書で扱われている会話使用の根底にある理論を理解し、実際の分析に役立てる。

これまでに共有・公開されている文章・談話のデータをもとに、文章・談話研究でのデータの採取の仕方とその分析方法について整理・検討する。以下の項目を、具体例の検証とともに押さえる。

I. データの種類とその扱い：分析の観点、ジャンル、レジスター、談話標識の研究、照応と省略、接続表現などの文法項目と適切性に関する項目の研究手法、参与構造、話者交替に関する項目の研究手法、

II. 分析の手法の検討：質的データ、量的データと使用可

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course deals with the basic methods and theory to analyze discourse and conversation.

I. Approaches to genre, register, studies on discourse markers, anaphora, ellipsis, connective words, participation framework, and turn construction unit

II. Methods for collecting data

III. Guidelines for assignment report writing

5. 学修の到達目標：(1)文章・談話研究のために必要な方法論を身につける。

(2)データの採取方法と採取したデータの分析方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goals of this course are to obtain basic methodology and skill to analyze discourse and conversation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

まず、以下の項目について会話使用の根底にある理論を理解し、それぞれのテーマに対応した問をデータを参照しつつ議論する。発表者はテキストを紹介する。第 1 回から第 10 回。

1. 属性とことば
2. 場面とことば
3. ことばのリテラシー
4. ことばの切換え
5. 生活とことば
6. 民俗社会とことば
7. 言語接触
8. 多言語との接触
9. 言語変化 1
10. 言語変化 2

第 11 回から第 15 回は、上記のテーマの中から、自分が興味をもったテーマについて、データをもとに調べる。データの扱い方、問の立て方について議論し、論文の書き方を身につける。

8. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [10%]・発表内容 [40%]

9. 教科書および参考書：

『社会言語学の展望』真田信治 [編] (2006) くろしお出版

ISBN978-4-87424-345-9 C3081

10. 授業時間外学習：論文を読んで、論点を把握し、まとめる。電子化データを検索し、鍵となる言語項目について分析する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講希望者は前期に開講する「文章・談話の構造論」を履修しているのが望ましい。

科目名：日本語学演習／ Japanese Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：津田 智史

コード：LB54405, 科目ナンバリング：LHM-LIN314J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：国語学講読】

1. 授業題目：言語地理学と文法
2. Course Title (授業題目)：Geo-Linguistics and Distribution of Grammatical Expressions
3. 授業の目的と概要：日本語における言語地理学と文法に関する研究論文について、その内容を要約して、発表をおこなう。日本語における言語地理学的な理論や考え方を学ぶとともに、文法事項の地理的分布などをどのように読み取るかについて考える。また、必要により文法以外の分布図にもふれるとともに、方言形成の過程についても考える。受講者全員で研究論文の内容について討議し、方言文法の分布解釈とそれにかかわる理論に関する理解を深めていく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the Japanese Geo-Linguistics and the way to read the atlas of Japanese dialect, especially grammatical matters. To learn Geo-Linguistic theories and how to read the geographical distribution of grammatical expressions, students will read the research papers about the theme, and summarize papers. Not only treating matters in Grammar, but also Phonetic or Lexical matters if necessary. Then also think about the Dialect Formation Theory. All students will discuss the content above and develop their understanding of interpreting the distribution of grammatical expressions and the theory related to it.
5. 学修の到達目標：(1) 自分たちが使うことばについての基礎的知識を身に付ける  
(2) 語学的な見方・考え方はもとより、調査・分析の方法、また問題設定、解決能力を身に付ける  
(3) 適切な発表資料の作成方法、発表・プレゼンテーションの技法を身に付ける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The primary goal of the class is for students to gain below.  
(1) To acquire basic knowledge of Japanese  
(2) To learn about the way to research and to solve problems  
(3) To develop the skills of how to create presentation materials, and the way of presentation
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス
  2. 日本語方言の分布と方言形成
  3. 日本の言語地理学と方言圏論
  4. 日本語方言における文法研究
  5. 言語地理学と文法に関する論文講読 (1)
  6. 言語地理学と文法に関する論文講読 (2)
  7. 言語地理学と文法に関する論文講読 (3)
  8. 言語地理学と文法に関する論文講読 (4)
  9. 言語地理学と文法に関する論文講読 (5)
  10. 言語地理学と文法に関する論文講読 (6)
  11. 言語地理学と文法に関する論文講読 (7)
  12. 言語地理学と文法に関する論文講読 (8)
  13. 言語地理学と文法に関する論文講読 (9)
  14. 言語地理学と文法に関する論文講読 (10)
  15. まとめ
8. 成績評価方法：  
レポート [30%]・授業への参与状況 [30%]・演習発表 [40%]
9. 教科書および参考書：  
教科書は使用しない。プリントを授業中に配布する。参考文献リスト及び参考図書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：発表担当者は、担当となった論文とその内容に関わる用語等について、日本語学関連の辞書や関連論文・書籍から調べておく。受講者は、事前にその論文を読み、その内容についての疑問や意見等をまとめておく。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
なし